



少数民族モンを訪ねる

寮生との別れ

貧しい山岳少数民族

余り並んでいる。

二、三人ずつが廊下の台でもう勉強しているのにびっくりする。

食事当番になると朝食と昼の弁当の用意があるので、勉強は夜のうちにやるのだらう。

勉強するため至れり尽くせりの日本の子どもたちとは大違いだ。

何十、時には百以上離れた山に住む家族と離れ、勉強させてもらっているのだらうか。意欲が違うのだろうか。

寮に滞在したのはわずか三日間だったが、別れの前夜には試験中なのにお別れ会を開いてくれた。

モンの子どもたちに教育の機会を与えるためにタイ北部に建設されたシャンティ学生寮は現在、男女合わせて四十五人が生活しているが、個室はなく、男子寮、女子寮ともに大部屋が二つ。一部屋に蚊帳を張ったベッドが十

壁に面して一人畳半畳分の勉強道具や衣類を入れるスペースがあるだけで、勉強机もない。勉強は廊下にある大きな台や一階の図書室でする。

朝五時起床のベルが鳴り、しばらくして二階の大部屋を見ると、



朝5時過ぎから勉強を始める男子



モン族独特の楽器、ケーン

で覚えるという。貧しくても全員が自分たちの民族衣装を持っているのはモンという民族の誇りの表れだらう。

翌朝七時半の登校前に寮の前に全員が集まって記念写真を撮り、手を振りながら学校に向かう。

寮からタイの学校に通い、タイ語での読み書きをする彼らがモンの言葉を忘れずに次世代に引き継いでほしいと思いつつ別れた。（元山口放送取締役ラジオ局長）

寮に滞在したのはわずか三日間だったが、別れの前夜には試験中なのにお別れ会を開いてくれた。

て、踊りや笛のケーンというモン独特の楽器を演奏するが、モンは文字を持ってないから楽譜などはない。親子が吹くメロディを耳

その時は日本の加工食材をたくさん持って来て食べてもらおう。それにしても紀元前



モンの民族衣装で踊る寮生